

授業方法について独自に工夫していること 【自然科学系】

【理科教育】協働学習方法を講義内に取り入れ、授業課題をグループで解決するような取組を行っている。
【教職】今までの講義や教育実習の振り返りと話し合いを取り入れている

- ・1単位時間ごとに一つの課題を提示し、解決するようにしている。
- ・課題について、自分で考える場、グループで協議する場、全体に発表して情報共有する場を設定して、自分の考えを引き出したり、多様な感じ方や考え方があることを理解するようにしている。
- ・教員の解説や説明よりも、実体験や実感を伴った理解に重きを置いている。
- ・どの時間も最終的には、教科の目標・内容・指導法に絞ってまとめている。

C-Learningというシステムを使い、授業改善を図っている。即時的なレスポンスを授業内で取り上げることができる。

授業で取り上げた数学教育的に重要な問題(実際の教科書上の問題や数学教育の中では有名な問題)を、授業の最初に解かせたり、授業開始時の小テストの問題にするなどして、その問題の解答に内在する数学的な見方・考え方を解説するという回を数回設けるようにしている。小テストの問題にする場合は、基本的には、前回の授業の終了時に、「次回までに考えてくるように」との指示を出している。
以前のアンケートで、「授業内容の量が多い・多すぎる」と回答する学生が25%程度いたため、内容を少し精選した。結果としては、10%強になったので、一定の効果は出ていると思われる。

小学校教科書を活用し、実際に小学校が行う体験的な活動を中心にした授業を行うことにより、生活科への興味を持たせるとともに、教材開発に必要な資質・技能を身に付けることができるよう工夫した。

水溶液の pH の解説を行う際に、溶液内化学平衡の解析をパソコンを活用して迅速に行うようにしている。このことにより効果的に化学平衡を理解することができていると考えている。

- 講義(聞く・知る)とペア対話やグループ協議・検討(話す・考える・分かる)ことを取り混ぜて行っている。
- 機器の利用(ICT活用)を心がけている。

教員免許を修得する学生にとっての最後の授業であるので、高等学校や中学校の授業を見学したり、課題探究の授業に加わり、高校生に直接アドバイスできる機会を設けたりした。また、受講生である4年生は、模擬授業を行う3年生の指導教員としての役割を行わせ、教育実地研究で学んだことを振り返り、後輩に伝えることで、総まとめができる工夫を行った。

教職についてから役に立つ内容で、かつ、4年間の学習内容の一部でもよいから、振り返ることになるような授業内容を作っている。

- ・個人での学習とグループでの学習もしくはディスカッション等のバランスを考えている。
- ・適宜、パワーポイント、DVD等の視聴覚教材を採り入れている。
- ・学術研究と実践研究の両方を重視している。

講義では学修カルテ(ポートフォリオ)用紙を学生各位に用意し、振り返り記述の確認を各講義回で行って講義内容の理解を確認しているほか、朱書きコメントをできる限り返している。また、遅刻者や欠席回数が多い者の出現比率が過去よりも高まっている状況から、学修の雰囲気づくりを講義冒頭にして環境を整える目的で、開始時に毎回こちらが用意したトピックに関して自己PRの表現をさせる欄を学修カルテへ今年度新たに追加して記述作業を加えた。

授業の中で小グループによるディスカッションを取り入れています。

毎回の授業の最終段階で「出席確認課題」を課し、その時間の学修内容の振り返りと、次の時間の学修内容への橋渡しを行っている。

幼児教育との接続を意識した愛知県知多地方教育計画案のスタートカリキュラムを取り上げ、5分間程度のシナリオを作成させる。具体的な指導場面における予想される児童の反応をできる限り詳しく想定させる。グループワークによって相互に批評し合い、各自のシナリオを修正させる。シナリオを用いてロールプレイを全員が行い、児童役の言動の質を高めるように指導する。
生活科の授業記録、実践記録を示し、児童の気づきを見出し、粘り強く取り組み続けるように導く教師の言動について議論できるようにしている。

初等教育の算数科研究であるが、小学校の児童のつまづきや発想について、学生が自ら体験できるような内容・教材を工夫して、教科内容と教職の教育との大括りにつながる内容の実践を試みている。